

平成24年(行ウ)第117号 発電所運転停止命令義務付請求事件

原告 134名

被告 国

証拠説明書

2012年10月16日

大阪地方裁判所 第2民事部 合議2係 御中

原告ら訴訟代理人

弁護士 冠 木 克 彦

弁護士 武 村 二 三 夫

弁護士 大 橋 さ ゆ り

弁護士 高 山 巖

弁護士 瀬 戸 崇 史

号 証	標 目 (原本・写しの別)	作 成 年月日	作 成 者	立 証 趣 旨	備 考	
甲21	県原子力安全専門委員会からの追加確認事項について	写	H23.6.10	関西電力株式会社	福井県原子力安全専門委員会に提出された説明資料。3頁の右上図の枠囲い説明の中に「最大応答加速度2910ガル(1.46倍)」と書かれ、下部の枠囲いの中にも「NS方向1.46倍」と書かれている。	
甲22	「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」等の改訂に伴う既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価等の実施について	写	H18.9.20	原子力安全・保安院	2006年9月19日に耐震設計審査指針が改定されたのを受けて、原子力安全・保安院から電気事業者等に対し、稼働中又は建設中の発電用原子炉施設等について、耐震安全性の評価を実施し、その結果を報告するよう指示を出したこと。	
甲23	平成17年度 原子力施設等の耐震性評価技術に関する試験及び調査 機器体力その2(PWR制御棒挿入性)に係る報告書	写	H18.8	原子力安全基盤機構	PWRの制御棒挿入性についてJNESが行った試験結果及びその結果に基づき、試験と実機との違いを考慮して、実機についての解析結果を記述。実機では、1560ガルでは3.26秒にもなっており、基準値2.2秒を大きく超えることが示されている。	
甲24	地震・津波22-2(地震・津波(地震動)21-7改)「活断層の連動を考慮した地震動評価」に関する意見聴取会における指摘及び原子力安全・保安院の対応方針について(案)	写	H24.8.30	原子力安全・保安院	2012年8月17日の21-7版の見解を改めて、熊川断層が小浜湾の中にまで入り込んでいることを認めた原子力安全・保安院の対応方針	
甲25	「大飯原発3・4号の破碎帯、活断層の3連動に関する福井件と福井件原子力安全専門委員会への質問・要望書」へのコメント(追加・修生版)	写	2012.7.3	東洋大学社会学部教授 渡辺満久(専門:変動地形学)	大飯原発敷地内のF-6破碎帯が活断層ではないと結論することはできないとするコメント	